

平成30年度芸術科「書道Ⅱ」シラバス	単位数	2単位
	学年・学級	2学年 1, 2、組

1 学習の到達目標等

学習到達目標	<p>1 書道における創造的な活動をとおして、書を愛好する心情を育てます。</p> <p>2 書を楽しむ態度をとおして感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深めていきます。</p> <p>3 1と2の学習をとおして、個性豊かな表現の能力と書的美しさを感じ取る鑑賞の能力を伸ばしていきます。</p>
使用教科書・副教材等	書道Ⅱ 光村図書・総合ペン習字（日本習字普及協会）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項，他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）	考查範囲
1 学 期	一 篆書の学習 1 さまざまな篆書 2 篆書(小篆)の特徴 3 金文(召尊)の鑑賞と臨書 4 篆書による創作と作品の鑑賞	4	篆書とはどのような書体かを知り，歴史的位 置付けを理解します。	世界史の学習に 関連します。	第一 学期 期 末 考 査
		5	泰山刻石の鑑賞と臨書をとおして，篆書(小篆) の特徴を理解し，基本的な用筆・運筆，結構を 習得します。 召尊の鑑賞と臨書をとおして，金文の基本的 な用筆・運筆，結構を習得します。 学習した古典の表現を生かし，篆書の作品を 創作します。 書表現の一分野としての篆刻の意義を理解し ます。 作品に対する効果を考え，姓名印を刻り，押 印します。		
	二 篆刻・刻字の学習 ■篆刻の学習	6	隷書とはどのような書体かを知り，歴史的位 置付けを理解します	古典や題材，構 成等は各自の感 性に基づくもの を選択します。	
		7	乙瑛碑の鑑賞と臨書をとおして隷書の基本的 な用筆・運筆，結構を習得し，その特徴を理解 します。 漢代木簡の鑑賞と臨書をとおして木簡の基本 的な用筆・運筆，結構を習得します。 これまで学習した古典の表現を生かして隷書 の作品を創作します。	世界史の学習に 関連します。	
三 隷書の学習 1 さまざまな隷書 2 乙瑛碑の鑑賞と臨書 3 漢代木簡の鑑賞と臨書 4 隷書による創作と作品の 鑑賞					
【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過を必要に応じて記録としてファイルします。 3 課題に応じて作品を提出します。					

<p>【1学期の評価方法】</p> <p>1 提出作品・「学習記録」の記録状況・「学習のまとめ」の内容・期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加態度などをもとに総合的に評価します。</p> <p>2 学期全体の評価は提出作品で50%、「学習記録」と「学習のまとめ」で20%、期末考査25%、学習活動への参加の態度で5%の配分で行います。</p> <p>3 提出作品については臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたか、また創作においては意欲的に創作に取り組み、意図した表現ができたかが評価の基準となります。</p> <p>4 期末考査は、篆書および隸書についてその特徴と古典に関する知的理解が主な範囲となります。</p>

2 学 期	<p>四 草書の学習</p> <p>1 草書の成立</p> <p>2 草書の特徴</p> <p>3 草書の名跡の鑑賞と臨書</p>	9	<p>草書の成立と歴史的位置付けを理解します。</p> <p>基本的な草書の学習により、草書の特徴を把握します。</p> <p>書譜、十七帖の鑑賞と臨書をとおして草書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、両古典の比較により、それぞれの特徴を把握し草書による表現の多様性を理解します。</p>	<p>世界史の学習に関連します。</p>	第二学期末考査
	<p>五 行書の学習</p> <p>1 さまざまな行書</p> <p>2 集王聖教序の鑑賞と臨書</p> <p>3 重厚と軽快</p> <p>■草書・行書による創作と作品の鑑賞</p>	10	<p>書道Ⅰの学習を基に、行書に対する興味・関心を深め歴史的位置付けを理解します。</p> <p>さまざまな行書の書風を鑑賞し、行書の表現の多様性を理解します。</p> <p>集王聖教序・祭姪稿・枯樹賦の臨書をとおしてその表現方法を習得します。</p> <p>草書または行書の表現を生かし、自ら題材を選んで創作を行います。</p>	<p>書道Ⅰでの学習の発展です。</p>	
	<p>六 楷書の学習</p> <p>1 均斉と均衡</p> <p>2 頸直と重厚</p> <p>3 温雅と雄健な小楷</p> <p>4 楷書による創作と作品の鑑賞</p>	11	<p>書道Ⅰにおける学習をもとに楷書の多様な表現にふれ、自らの個性を生かす古典を選択して学習を深めます。</p> <p>学習した古典の表現を生かし、題材や形式を選択して創作を行い相互に鑑賞批評を行います。</p>	<p>古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します</p> <p>書道Ⅰでの学習の発展です。</p>	
	<p>七 仮名の書の学習</p> <p>1 仮名の種類</p> <p>2 仮名の書の特徴</p> <p>3 高野切第一種の鑑賞と臨書</p> <p>4 高野切第一種の臨書と短冊の書式</p> <p>5 三色紙の鑑賞と散らし書きの学習</p>	12	<p>書道Ⅰの学習をもとに仮名の種類、特に変体仮名の種類について学習し、理解を深めます。</p> <p>仮名の書の臨書（主として高野切第一種）や鑑賞をとおして表現技法を習得し、短冊や散らし書き等の形式についても理解を深めます。</p>	<p>古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します</p> <p>書道Ⅰでの学習の発展です。</p> <p>国語・日本史の学習と関連します。</p>	
<p>【課題・提出物等】</p> <p>1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。</p> <p>2 提出前の途中経過を必要に応じて記録としてファイルします</p> <p>3 单元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い自己評価します。</p> <p>4 課題に応じて作品を提出します。創作作品は数時間をかけて完成させます。</p>					
<p>【2学期の評価方法】</p> <p>1 提出作品、「学習記録」の記録状況、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。</p> <p>2 学期全体の評価は提出作品で50%、「学習記録」と「学習のまとめ」で20%、期末考査25%、学習活動への参加の態度で5%の配分で行います。</p> <p>3 提出作品については漢字の書（臨書）においては対象となる古典の特徴を表現できたか、創作作品においては自分の意図したように表現することができたか、仮名については基本的な用筆が習得できたかが評価の基準となります。</p> <p>4 期末考査は学習した古典についての知的理解と仮名の種類が主な範囲となります。また、学習した草書や変体仮名は読めるようにしておきましょう。</p>					

3 学 期	6 小字による表現 7 大字による表現と作品の鑑賞	1	2学期の学習を基に仮名の書による創作を、題材や形式を選択して行います。	古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します。書道ⅠⅡの学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組みます。生涯にわたり書を愛好する心情を身に付けます
	八 漢字仮名交じりの書の学習 1 さまざまな表現 2 古名跡に学ぶ表現の工夫 3 創作/さまざまな表現の工夫	2	これまでの漢字及び仮名の学習を基に漢字仮名交じりの書の創作を行います。 詩文、形式、用具・用材、構成など工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性を表現する最良の方法を模索します。	
	4 生活に生きる書	3	生活に生きるさまざまな書にふれ、これまでの学習を今後どのように生かしていくかを考えます。	
【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします。 3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。				
【3学期の評価方法】 1 提出作品、「学習記録」の記録状況、「学習のまとめ」の内容、用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で65%、「学習記録」と「学習のまとめ」で30%、学習活動への参加の態度で5%の配分で行います。 3 提出作品については、仮名、漢字仮名交じりの書の創作作品においては、自分の意図した表現をすることができたかが評価の基準となります。				
【年間の学習状況の評価方法】 下記の4つの観点から評価した1学期、2学期、3学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。				

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。 ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのために「学習記録」はていねいに書きましょう。 ・創作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具・用材などを積極的に選択していきましょう。
授業を受けるにあたって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。 ・作品ファイルはきちんと整理しておきましょう

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「関心・意欲・態度」、「芸術的な感受や表現の工夫」、「創造的な表現の技能」、「鑑賞の能力」の4つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	書を愛好し、古典の学習をとおして書の文化や伝統についての理解を深めようとしているか。 漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の学習をとおして、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・「学習記録」の記入状況 ・作品ファイルの整理状況 ・「学習のまとめ」の内容 ・提出作品 ・定期考査
芸術的な感受や表現の工夫	感性を高め、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の学習をとおして個性豊かな能力を伸ばし、創造的な表現を工夫しているか。	・提出作品 ・「学習記録」の記入状況 ・「学習のまとめ」の内容
創造的な表現の技能	漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において個性豊かな表現をするために、幅広い表現理論と技能を身につけているか。	・提出作品 ・作品ファイル ・「学習記録」の記入状況
鑑賞の能力	古典の学習をとおして書の歴史や文化について理解し、鑑賞の活動の中で書の美を分析的、総合的に捉え、そのよさや美しさを味わっているか。	・定期考査 ・「学習記録」の記入状況 ・「学習のまとめ」の内容

3 担当者からのメッセージ

- ・書道Ⅰで習得したものを基礎として引き続き一人ひとりの個性を生かし、これをさらに伸ばしていくことが学習の目標です。練習する古典や題材とする語句などを選ぶ際、自分の目指す表現を明確にして、それを生かせる選択をしていきましょう。
- ・1時間の中での進歩、単元をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、1年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習への積極的な取り組みを期待します。
- ・書道Ⅱの学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じ、これを愛好していく心情が身に付いていくことを希望します。